

2月5日（月）その130 人生は今の連続、小さな決定の連続

2月3日（土）は、豊見城中央公民館で島尻地区の学力向上推進実践発表大会があり、「豊見城市立ゆたか小学校」、「南城市立佐敷中学校」、「南風原町新川地区・新川ファミリー会」の素晴らしい実践発表がありました。ゆたか小と佐敷中は、一丸となった「チーム学校」の取組で全国学力調査で素晴らしい成果を出した取組を報告していました。

また「新川ファミリー会」は、新川地区のPTAと子ども育成会が合同で活動する実践を発表していました。地域の青年会や老人会、ジュニアリーダーなどの既存の組織と、子ども会を結びつける大変注目すべき実践発表でした。コーディネート役の方々の働きが重要だと感じました。

さらに後半は教育講演会でした。講師は「グッジョブおきなわプロジェクト」代表の喜屋武裕江氏で、「10年後のために“今”できること～一緒に語ろう未来地図～」という演題でした。プロフィールによると最近の5年間で254か所で講演し、26,205人に聞いてもらったそうです。教職関係でも数多くの研修会で講演し、保護者向けの講演会も多いとのことでした。

大会冊子の講師プロフィールの欄に書かれている内容概略を紹介しよう。

[講演内容]

沖縄県の失業率は改善されているものの、依然として全国平均を上回り、特に若年者雇用の課題は深刻を極めている。社会に求められる人材にとって大切な力は、小中学校までに培われる「凡事徹底」といわれる人間力と、小中学校の学習が重要である。

現在、人材確保や育成において企業が抱える課題とされている事例を紹介しながら、10年後の未来のために、本人、そして支援する側が「今」すべきことをともに考えていく。

沖縄県の具体的なデータなども活用しながら、心地よい美しい声で、とても説得力のある素晴らしい内容だった。私も感動し、周りの多くの参加者が「感動した」と言っていた。特に最後に、本人の保健室登校の経験や、いくつかの病気を克服しながら頑張ってきたこと、今では視野が狭く10円玉くらいの範囲でしか見えないことなどを話していた。講演内容が素晴らしくばりばりのキャリアウーマンと感心していただけに、さらに驚かされた。

話の持って行き方は違うが、結論は私が東風平中の子ども達に語ったこととほとんど同じだった。「10年後の自分」を考えさせ、輝く自分を作り上げるために「今」を大切にすること。「未来を創ることは、今を決めること。未来は、今の積み重ね」とも言っていた。

私も30年後の自分を考えさせ、30年後に輝くためにこれからの10年間で身に付けるべきことを考えさせた。「今に生きる」、「人生は今の連続、今しかない」、「人は毎日小さな選択をして行動していく。その積み重ねが未来をつくる」という話をした。

彼女の講話のスライドをデジカメで30枚ほど写して、パワーポイントのシートにしてある。もう一度じっくりと読んでみて、私の講話に一部取り入れたいと思う。今月の下旬に高嶺中生徒への講話を引き受けたので、さっそく喜屋武裕恵さんからいただいたパワーを私の講話に注入しよう。

2月6日（火）その131 「脚下照顧Ⅷ」をプレゼントします！

昨年度は全くの「自遊人」でしたが、今年度は縁あって島尻教育研究所長をすることになりました。「5分間所長講話」は、義務教育課長時代に2年間で265回実施し、多くの方々から好評だったこともあり、「所長講話」として再びやることにしました。今回は広く島尻地区の先生方にも読んでいただきたいと思い、HPにもアップしました。「週3回実施」を自分に課して、います。いつも聞いてくれている研究員、そしてネットで見て下さっている皆様のおかげで、今週130回を超えることができました。ありがとうございました。聞いてくださる人があっての「5分間講話」ですから。

この講話で「話す内容のバランス」を考えたことは一度もありません。基本コンセプト「①学び続けること ②プラス思考 ③自己開示」に合致しているかどうかはチェックしますが、私が「何らかの刺激を受け琴線が揺さぶられたこと」をいつも書くようにしています。新作が多いのですが、義務課長時代に書いた話が浮かぶこともあるので、それを書くこともあります。私の冊子を持っている方は、「このネタは見たぞ！」というのがあるかも知れません。(笑)でも今の感覚で、新しく書き直しているんですよ。

プレゼンを活用した講話(60～90分)もこの2年間で31回実施しました。聞いてくださった方の数は、ざっと数えて2,700人です。また5分間所長講話は、10人に話をしていますから130回で「延べ1,300人」、ネットで「延べ3,500人」に見てもらっていますので、計4,800人ですね。合計(2,700+4,800)人=延べ7,500人ですね。大変ありがとうございます。ついでに、この10年間で私の講話を聞いた人の数は、どれくらいだと思いますか？「35億!」、言ってみたかった。(笑)

パワーポイントで作成したシートは、講話を聞いていただいた方々が希望するなら、差し上げてきました。じっくりと見て教材研究をしたり、あるいは分割して授業や講話で活用したりして、「目の前の子ども達のために」役立てて欲しいと思っています。いつも「著作権フリー」で提供しています。

「5分間所長講話」は2月いっぱい(140回程度)までの内容で、「脚下照顧Ⅷ」として、印刷所に製本させようと考えています。講話のタイトルだけでは、中に書かれている内容がわからない場合もありますから、3行程度で内容がわかるキーワード入りの目次一覧を作ろうと考えています。後で「読んだ覚えがあるけど、あの話はどこにあったかな？」と、さがすときに大変便利です。活用したい人には、役に立つと思いますよ。

ここからが重要なお知らせです。いつも「5分間所長講話」聞いて下さったいる方々に感謝の気持ちを込めて、冊子をプレゼントしたいと考えています。もちろん「無料で」差し上げます。所長は、「3日半勤務」の非常勤職員で薄給なのですが…安心して下さい。私は趣味と実益を兼ねた別のお仕事もときどきしていますから、稼ぎます!「その95」参照です!(笑)

ただ誰が読んで下さっているのか、欲しいのか、私の方では全くわかりません。そこで皆様の方から「冊子が欲しい!」とアクセスして下さい。毎週100人程度の方が読んで下さっているので、「120冊」を準備します。

次のページの応募用紙を印刷して、島尻教育研究所の大城朗あて、FAX等で申し込んで下さい。120名様限定ですよ。太っ腹でしょう!!(笑)

この用紙をダウンロードして、お使い下さい。

〒 901-0401 八重瀬町字東風平 965 番地 南部広域行政組合内
島尻教育研究所長 大城 朗あて

電話 098-998-9561 FAX 098-998-9420

「脚下照顧Ⅷ」 申込用紙

◎受け取り方法

下記の①、②、③のいずれかを選択し、必要事項をお書き下さい。

①、②の場合は、FAX 送信して下さい。

③の場合は、封書で島尻教育研究所（大城朗）あて郵送して下さい。

①	島尻地区の学校なので、 <u>島尻教育事務所のBOX</u> に入れて下さい。	[鑑なし・この用紙のみを、FAX 送信して下さい。] 学校名 氏名
②	研究所まで取りに行きます。 (受取期間は、後日 所長講話で連絡)	[鑑なし・この用紙のみを、FAX 送信して下さい。] 所属または住所 氏名
③	郵送して下さい。 郵送料は 300 円です。 (ゆうメール) 300円分の切手を、 この用紙のどこかに ちよこんとのり付けし てください。(すぐは がして使えるよう、お 願います。)	[必ず封書で送付して下さい。] 〒 住所 氏名
通信欄		

2月9日（金）その132 チューリップポークと金ちゃんヌードル

先週の金曜日「その129」で、「魚肉ソーセージ」のことを書きましたが、今日は沖縄県民が好んで購入する食材「ポークランチョンミート」と「金ちゃんヌードル」についてお話をしたいと思います。

沖縄で特に売れている商品に、ポークランチョンミートがあります。PORK（豚肉）、LUNCH（昼食）、MEAT（肉）の合成語であるらしい。沖縄では、デンマークから富村商事が輸入している「TULIP（チューリップ）」が圧倒的なシェアを占める。スーパーの目玉商品の定番ですね。ファーストフード店 JEF の人気商品「ヌーヤルバーガー」にも、TULIP が使われているようだ。日本へのポークの輸入の9割は沖縄で消費されているらしい。

ポークは戦後の食糧難の時代にアメリカ軍が持ち込んだことから、県民の間にも広がったと言われている。一般的に沖縄県民は、「濃い味」を好むようである。ポークはそのまま焼いて食べてもよし！ゴーヤーチャンプルーでもよし！あるいは島豆腐と一緒に味噌汁の具としてもよし！また「ポーク卵」は沖縄の大衆食堂の定番メニュー、最近では「ポーク卵おにぎり」もコンビニメニューとして定着してきている。那覇空港の到着口近くにポークおにぎり専門店ができていて、いつも観光客の行列ができています。なんで行列ができるの？と不思議な気がします。

次に「金ちゃんヌードル」です。製造元は徳島県にある徳島製粉です。世界初のカップめんは日清製粉の「カップヌードル」で、他府県ではカップヌードルが圧倒的に売れているのに、沖縄では「金ちゃんヌードル」が第一位だそうです。味が沖縄県民好みで、麺の質もよく、また容器が二重カップでフタもちゃんと付いていて、カップヌードルよりも高級感があるからなのかな？今でも全国平均の1.5倍、月に3～4万ケースが沖縄で消費されているそうです。県民4人に1人が毎月購入している計算になる。

私が高校生の頃には、萩本欽一が「欽ちゃんが来ました。金ちゃんも来ました。」とCMをやっていましたね。金ちゃんヌードルは、萩本欽一の「欽ちゃん」ではなくて、徳島製粉の「鳴門金鶴」（なるときんつる）という小麦粉の名前に由来しているそうです。

ついでにカップめんについて調べてみました。今では世界中で発売されているカップめんですが、日清食品によるとカップめんは、チキンラーメンをどぶりのないアメリカで売り出すために開発されたものだそうです。カップラーメンの容器は、①パッケージ（入れ物）、②調理器、③食器である画期的なものだと、日清食品は胸を張っています。

ここでクエスチョンです。なぜカップめんの容器は、逆円錐台の形なのでしょう？

答えは、めんが約4cmと厚いので、お湯を注いだときに熱がまんべんなく行き渡るように、めんを宙づり状態にするためだそうです。日清食品によると①麺割れを防ぐ。②お湯で対流を発生させ、熱をまんべんなく行き渡らせる。③重力で麺がほぐれ、自然におりていくことを理由にあげています。

松山容子のパッケージのボンカレーは、沖縄だけでしか販売されていないそうです。近くのスーパーではレトルトカレーの中で一番場所を取って平積みされていた。さあ「なぜなのか」、みんなで朝トークしましょうか。（笑）